

2020年3月期第2四半期 決算補足資料

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所市場第一部:9037



【福井センター】

- I. 2020年3月期第2四半期概況
- II. 2020年3月期 下期に向けて
- III. 2020年3月期第2四半期実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

※本資料は、2013年8月13日発表の訂正短信に基づき、2011/3～2013/3の数値を訂正しております。

I . 2020年3月期 第2四半期概況

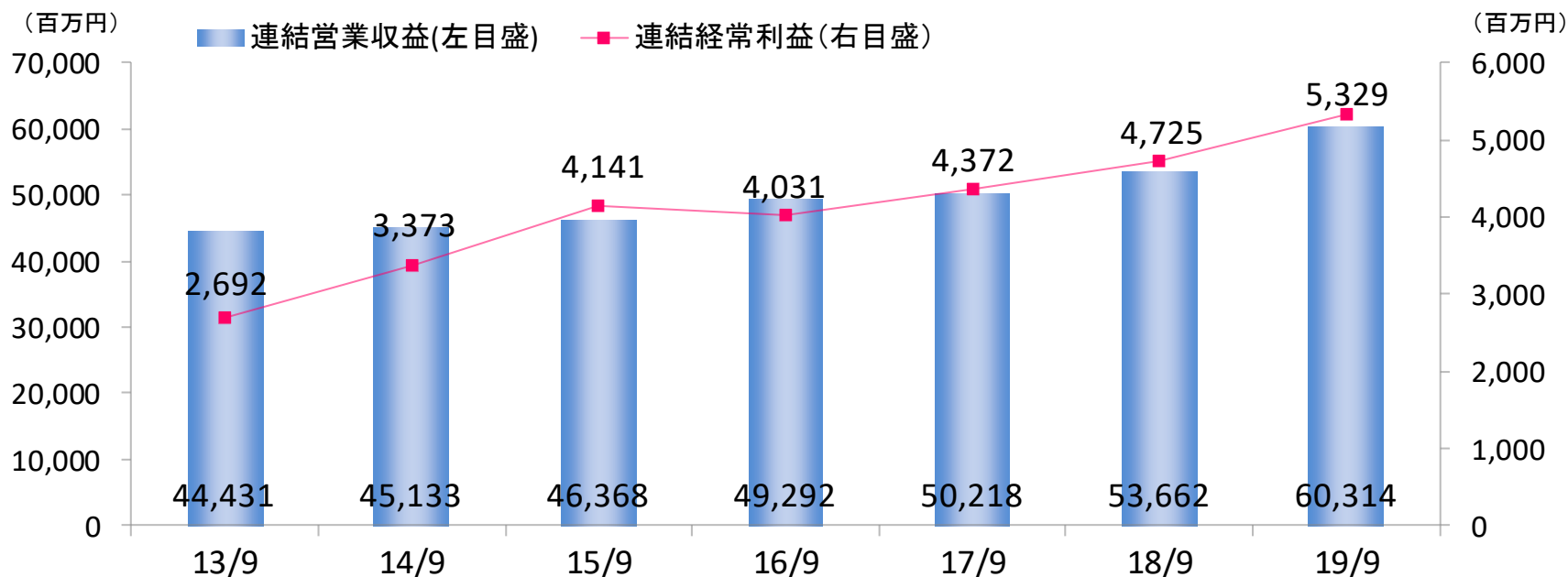
I -1. 2020年3月期第2四半期の業績

営業収益は、603億14百万円(前年同期比+12.4%)

経常利益は、53億29百万円(前年同期比+12.8%)の増収増益

項目	対前期比	対前期比増減要因
営業収益 60,314百万円	+6,652百万円 (+12.4%)	・物流センター事業での運営の充実と新規稼働したセンターが順次業績に寄与及びM&A効果 ・貨物自動車運送事業での運賃値上げ
営業利益 5,075百万円	+569百万円 (+12.6%)	・物流センター事業で売上増加 ・貨物自動車運送事業での売上増加したものの、外注費の増加により利益減
経常利益 5,329百万円	+603百万円 (+12.8%)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益 3,072百万円	+237百万円 (+8.4%)	

I-2. 収益構造



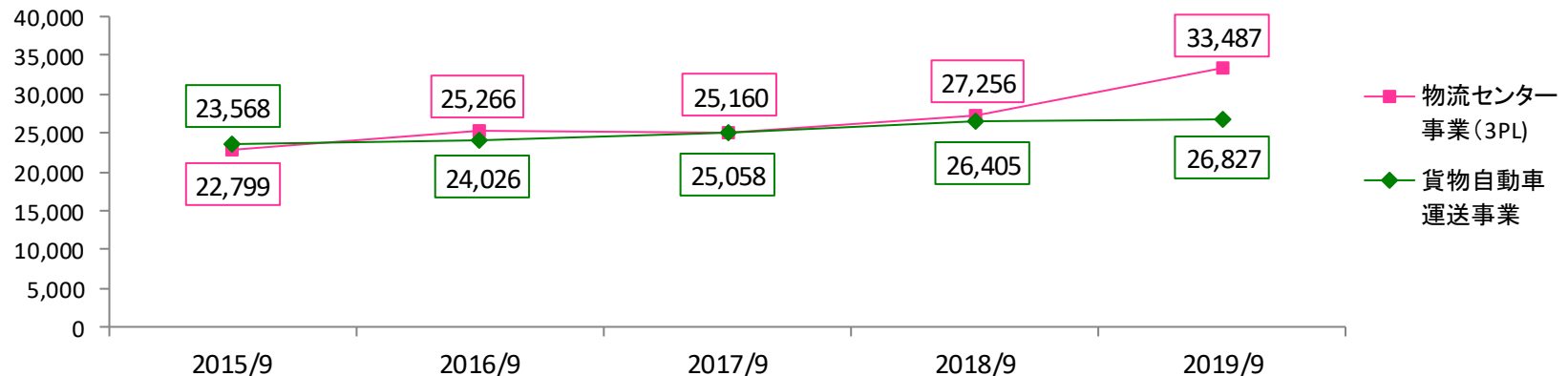
	連結業績
営業収益	7期連続 増収(過去最高)
営業利益	3期連続 増益(過去最高)
経常利益	3期連続 増益(過去最高)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6期連続 増益(過去最高)

I-3. セグメント情報の推移

(連結:百万円)

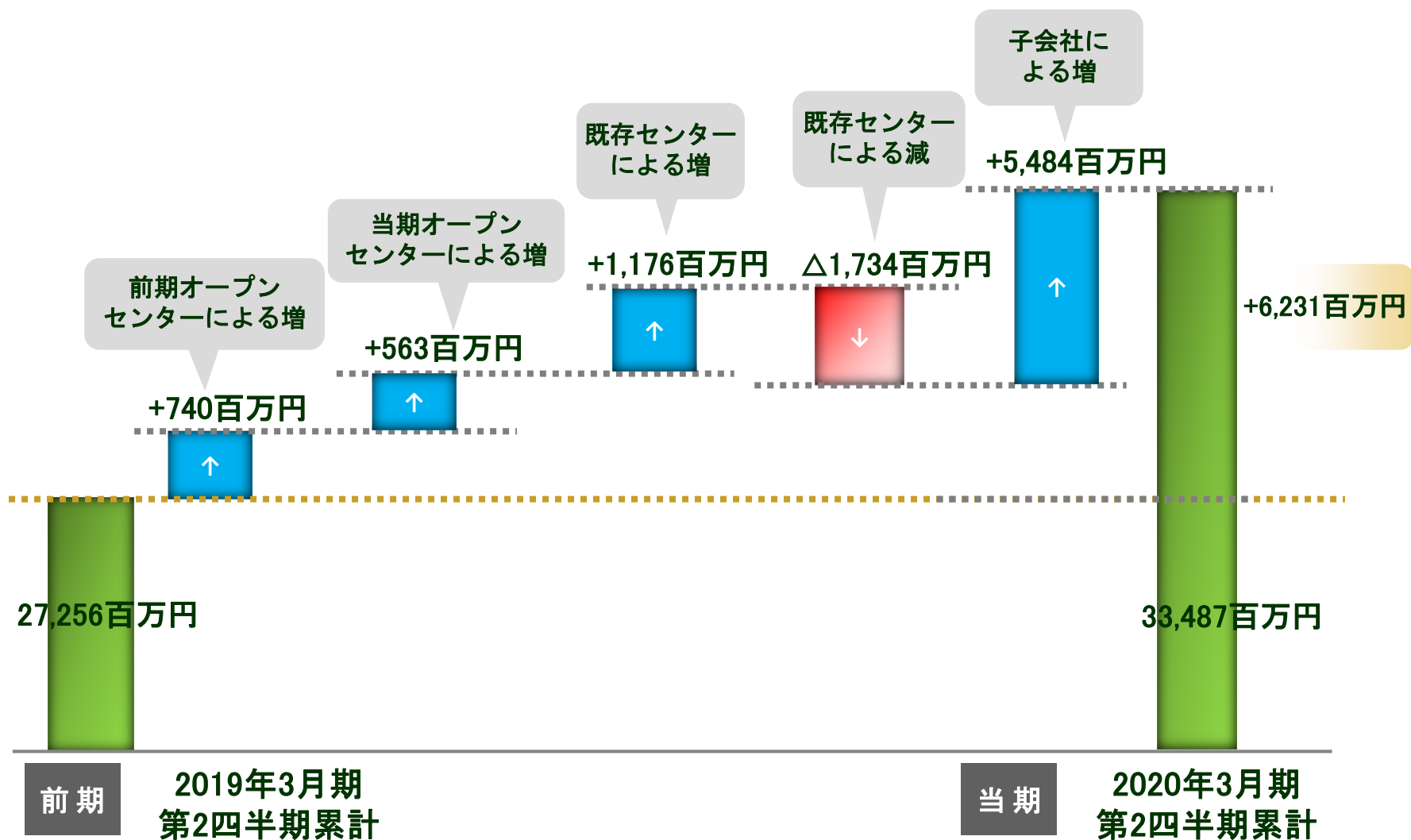
		2015/9 (構成比:%)	2016/9 (構成比:%)	2017/9 (構成比:%)	2018/9 (構成比:%)	2019/9 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	22,799 (49.2%)	25,266 (51.3%)	25,160 (50.1%)	27,256 (50.8%)	33,487 (55.5%)	+6,231 (+22.9%)
	営業利益	2,676	2,405	2,701	2,970	3,702	+732
貨物自動車 運送事業	営業収益	23,568 (50.8%)	24,026 (48.7%)	25,058 (49.9%)	26,405 (49.2%)	26,827 (44.5%)	+421 (1.6%)
	営業利益	1,346	1,436	1,401	1,532	1,369	△163

営業収益の推移



I-4. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況

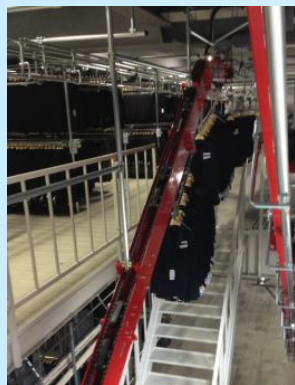


I-5. 物流センター—事業の稼働状況

新規受託及び稼働

取扱品目	①	②	③	④	①+②-③-④	未稼働memo
	前期受託 未稼働	当期 受託	稼働		当期 未稼働	
			既存※1	新規※2		
食品					-	
繊維・アパレル		3社	2社		1社	
医薬・医療		1社	1社		-	
雑貨	1社	2社	1社	1社	1社	
その他		2社			2社	
計	1社	8社	4社	1社	4社	

※1 既存の物流センター内に稼働した案件 / ※2 新規拠点にて稼働した案件

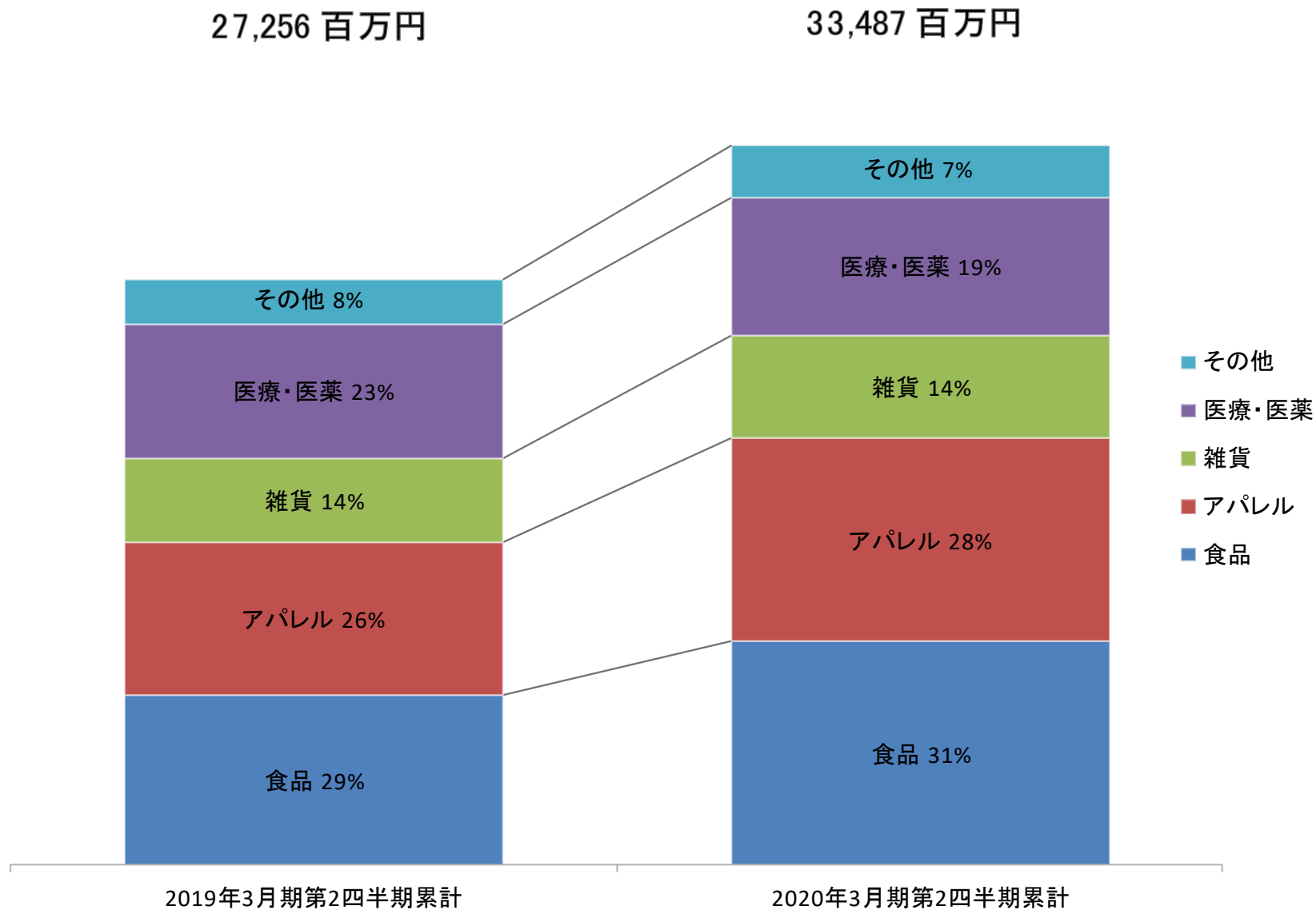


物流センター数

2019年9月30日現在

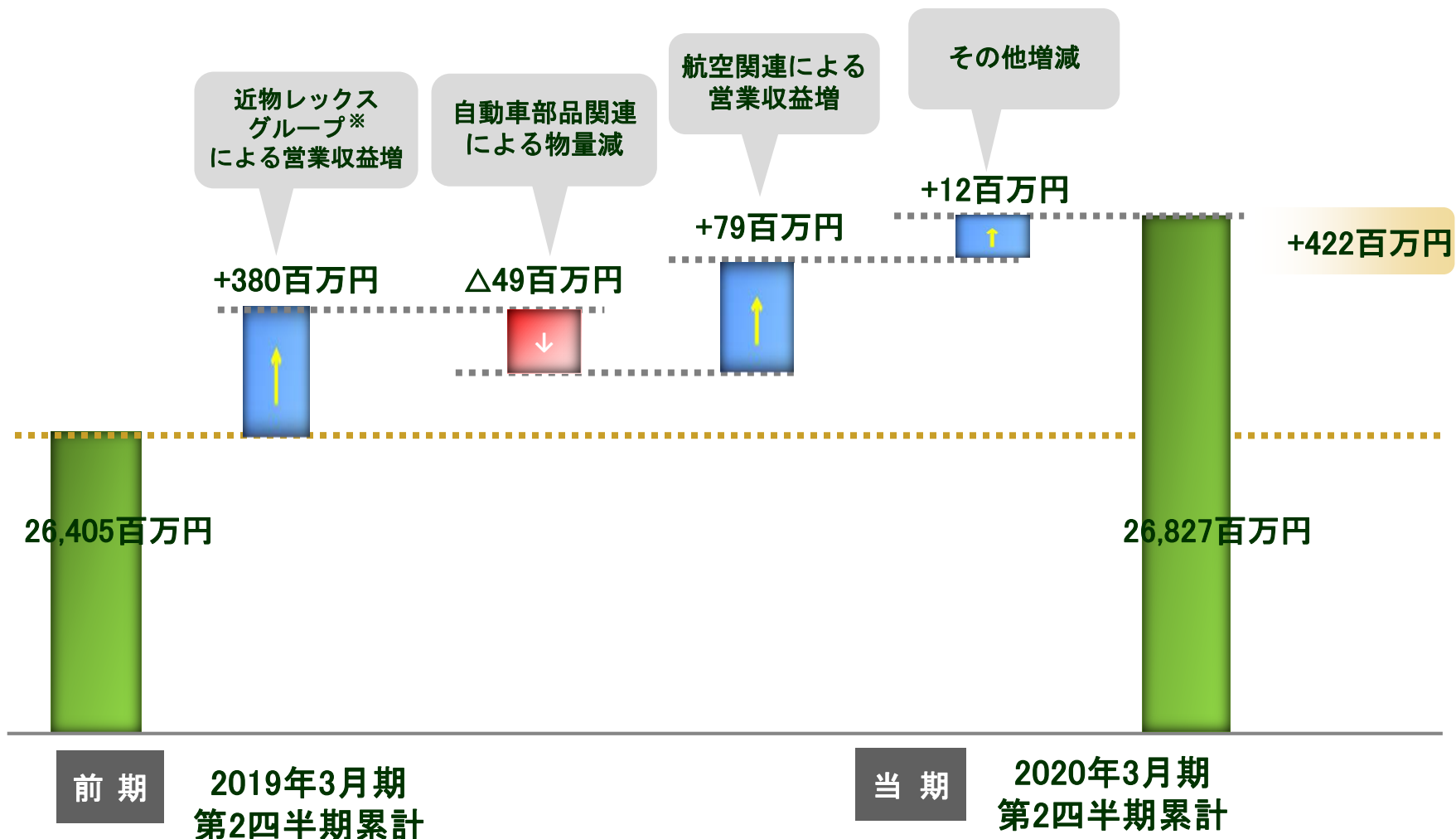
自社センター	37	(423,611㎡)
借用センター	79	(694,257㎡)
計	116	(前年度末比+1)

I-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高



I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス株式会社とその子会社5社です。

(都運輸株式会社、三重近物通運株式会社、茨城県貨物自動車運送株式会社、株式会社イービーエクスプレス、近物ロケーションサービス株式会社)

Ⅱ. 2020年3月期 下期に向けて

Ⅱ-1. 2020年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	121,000	+5,080 (+4.4%)
営業利益	10,500	+586 (+5.9%)
経常利益	10,800	+437 (+4.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,200	+294 (+5.0%)
設備計画	9,000	***

(百万円)

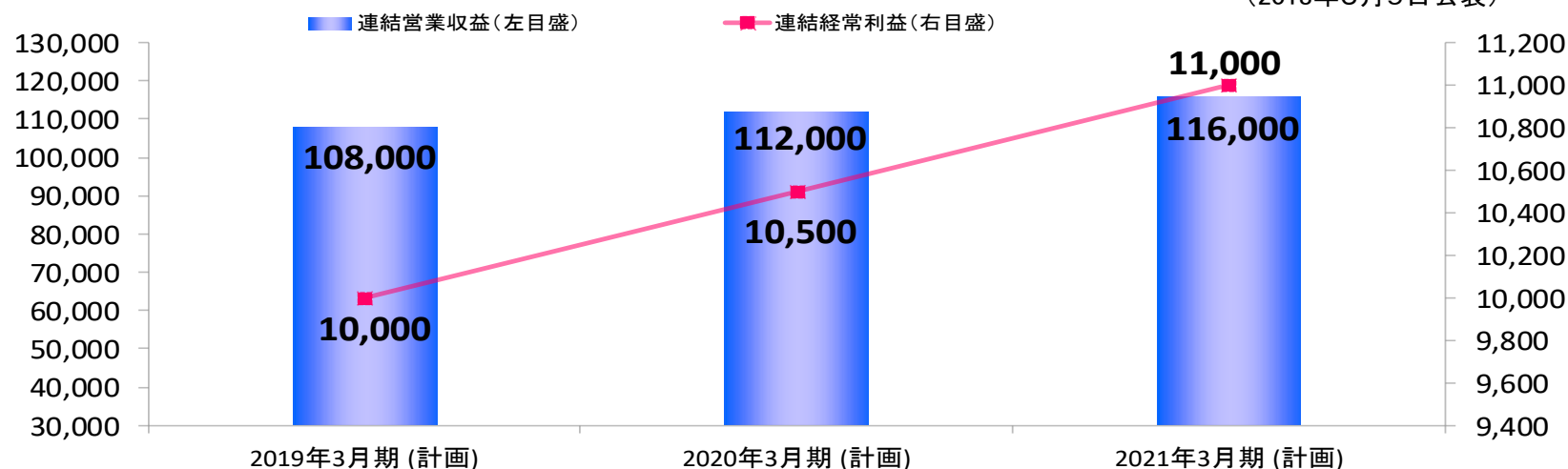
セグメント別業績予想		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	66,000	+4,549	(+7.4%)
	営業利益	7,000	+423	(+6.4%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	55,000	+531	(+1.0%)
	営業利益	3,500	+171	(+5.2%)

Ⅱ-2. 中期経営計画

(百万円)

	2019年3月期 (計画)	2020年3月期 (計画)	2021年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	108,000	112,000	116,000
経常利益	10,000	10,500	11,000
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,000	6,300	6,600
1株当たり当期純利益	315.7	331.5	347.3
営業収益経常利益率	9.3%	9.4%	9.5%
設備投資計画	60億円	90億円	90億円

(2018年5月9日公表)



Ⅱ-3. 今後の取り組み

1. 既存路線を軸とする事業展開(拡大路線)

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

お客様とのコミュニケーションを重視し、提案型物流企業をめざす
人手不足及び更なる生産性向上のためのロボット・AI導入に向けた取り組み
ラストワンマイルのプラットフォーム構築を検討しEC物流への対応
センター立上時の初期コストの低減及び早期安定稼働をはかる

2. 3PL事業とグループ会社の融合

近物レックスの拠点網が充実している東北・東海・関西エリアでのシナジー強化を図る
グループ間で配車担当者とのコミュニケーションを強化し、グループシナジー強化を図る

3. 運送事業の取り組み

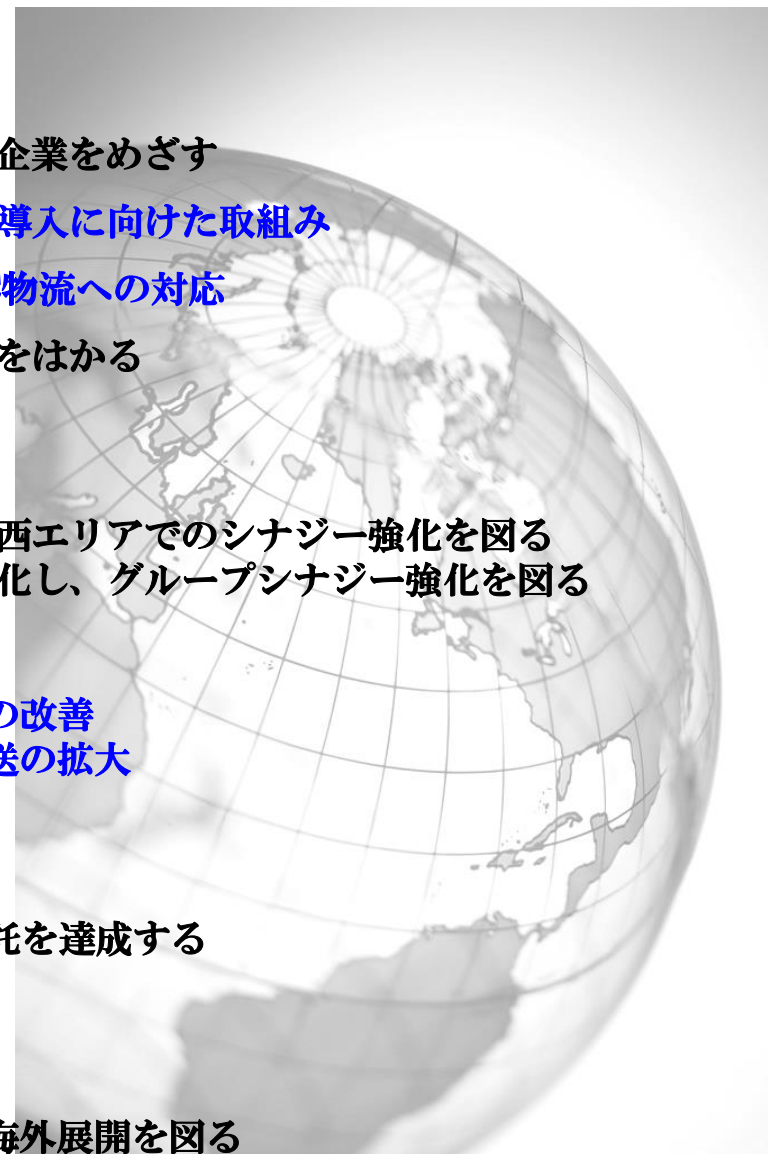
ドライバー確保のための運賃是正の推進及び労働環境の改善
近物レックスによる同業他社との共同施設及び共同配送の拡大

4. 新規顧客獲得に向けた取り組み

物流センター事業での年間受託目標15社以上の新規受託を達成する

5. 海外戦略への取り組み

国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る



Ⅲ. 2020年3月期 第2四半期実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(連結:百万円)

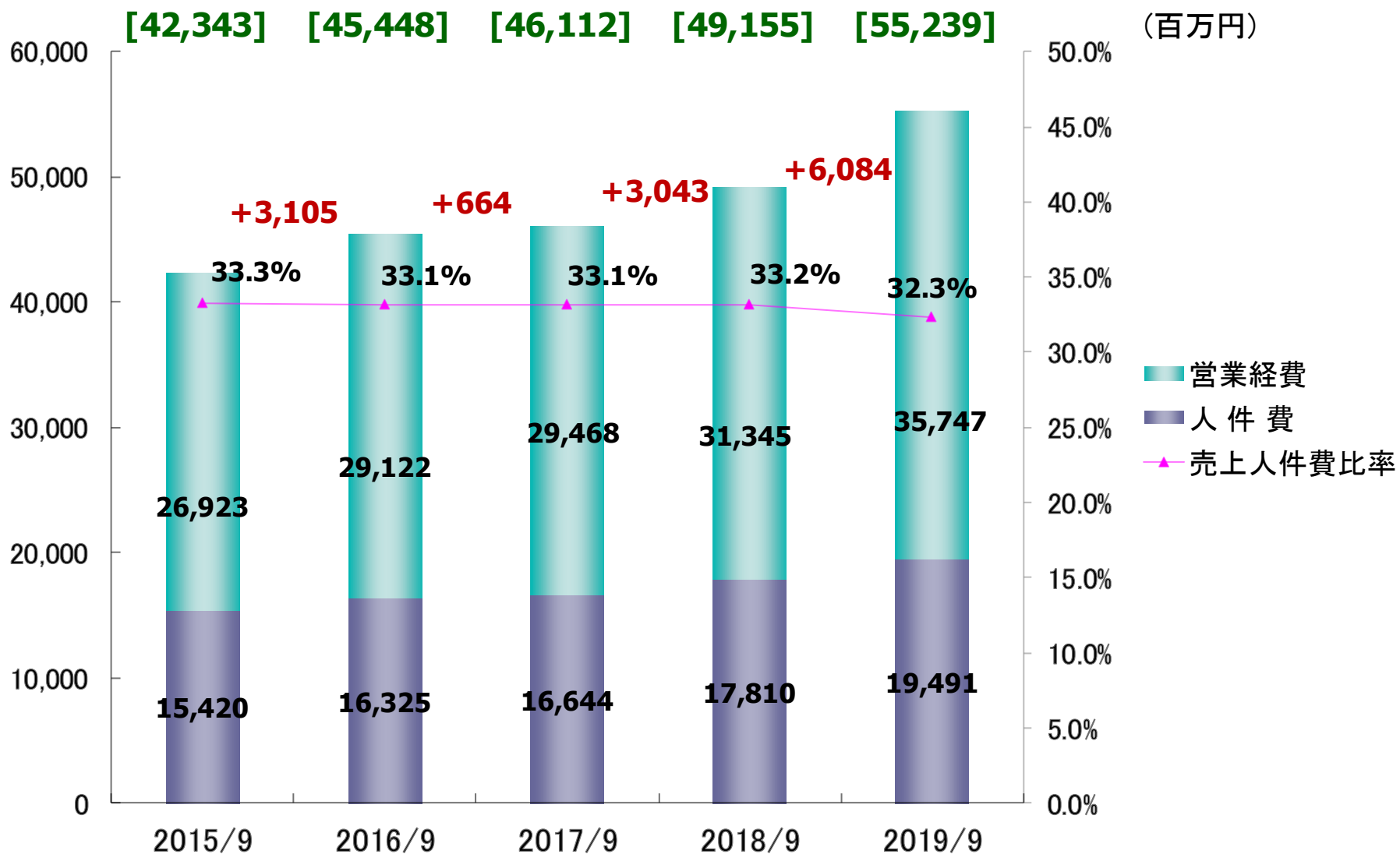
	第1四半期			第2四半期		
	2019/6	前期比 (増減率)	利益率	2019/9	前期比 (増減率)	利益率
営業収益	29,692	+2,826 (+10.5%)	—	30,621	+3,826 (+14.3%)	—
営業利益	2,491	+177 (+7.7%)	8.4%	2,584	+391 (+17.8%)	8.4%
経常利益	2,644	+204 (+8.4%)	8.9%	2,684	+398 (+17.5%)	8.8%
親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1,528	+78 (+5.4%)	5.1%	1,544	+158 (+11.5%)	5.0%

Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

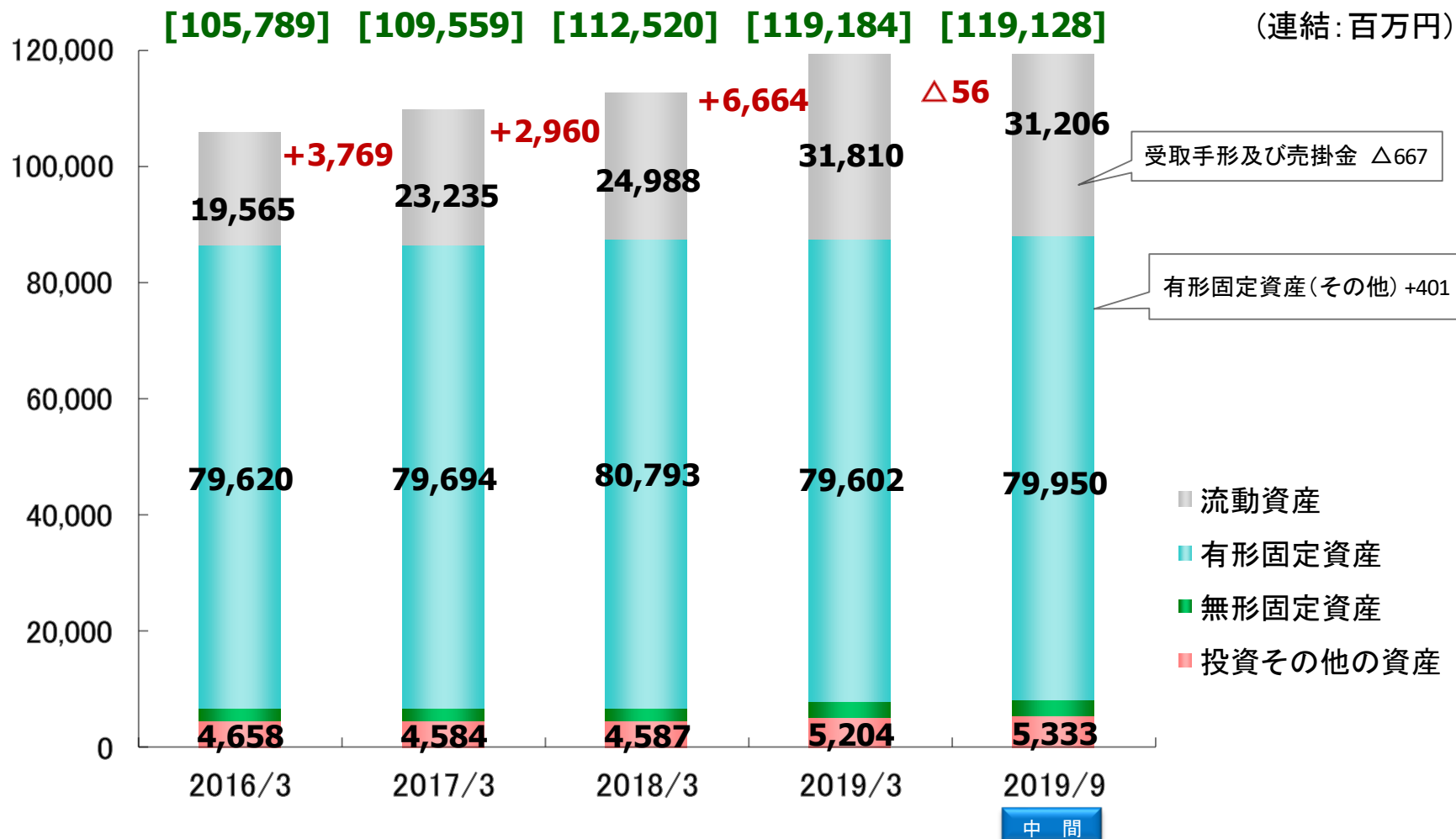
(百万円)

		第1四半期 (4~6月)		第2四半期 (7~9月)		第2四半期累計 (4~9月)	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	16,376	+2,803 (+20.7%)	17,111	+3,427 (+25.0%)	33,487	+6,229 (+22.9%)
	営業利益	1,835	+271 (+17.3%)	1,866	+460 (+32.8%)	3,702	+731 (+24.6%)
貨物自動車運送	営業収益	13,316	+23 (+0.2%)	13,510	+399 (+3.0%)	26,827	+421 (+1.6%)
	営業利益	654	△93 (△12.5%)	715	△69 (△8.9%)	1,369	△163 (△10.6%)

Ⅲ-3. 経費・人件費

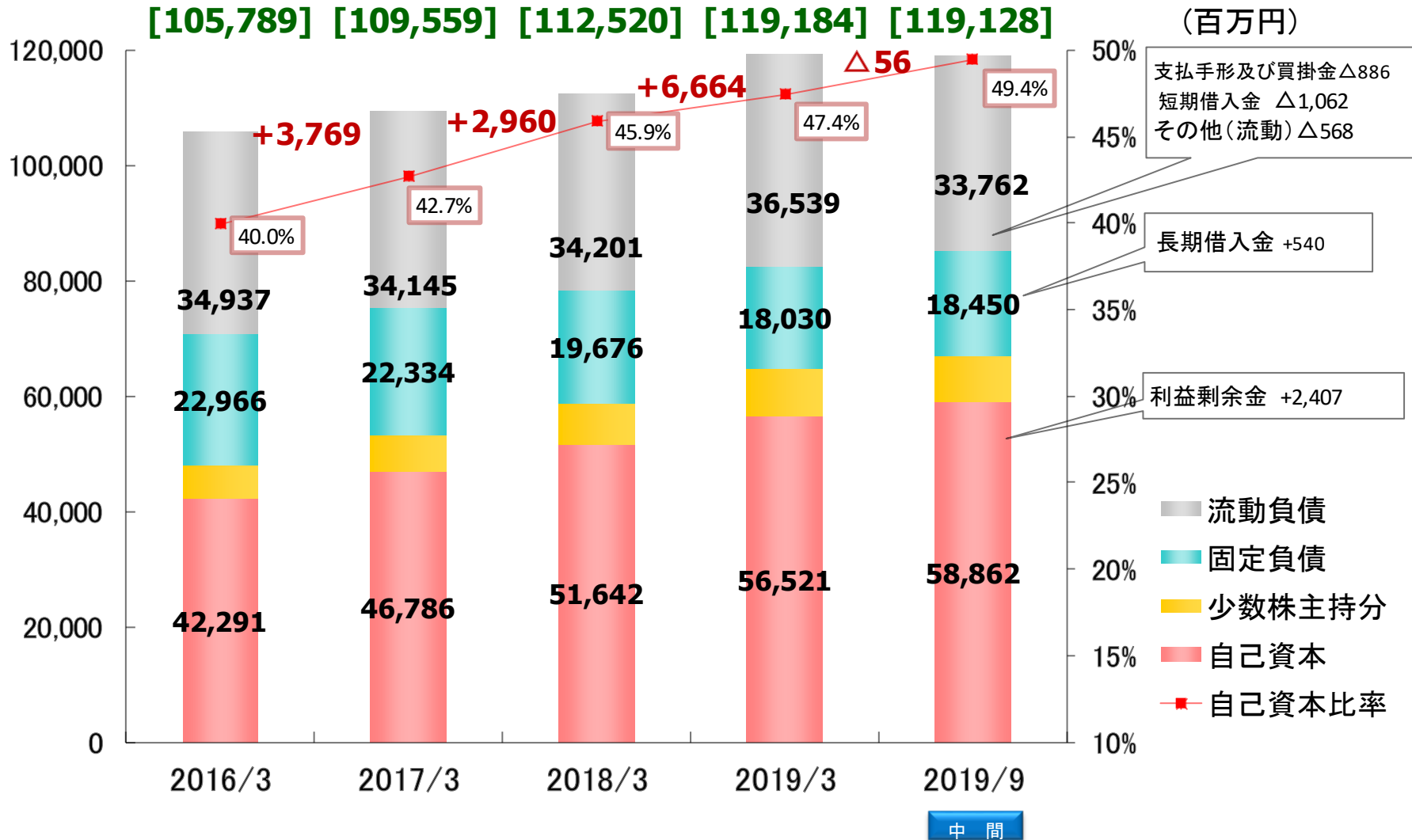


Ⅲ-4. 貸借対照表<資産>



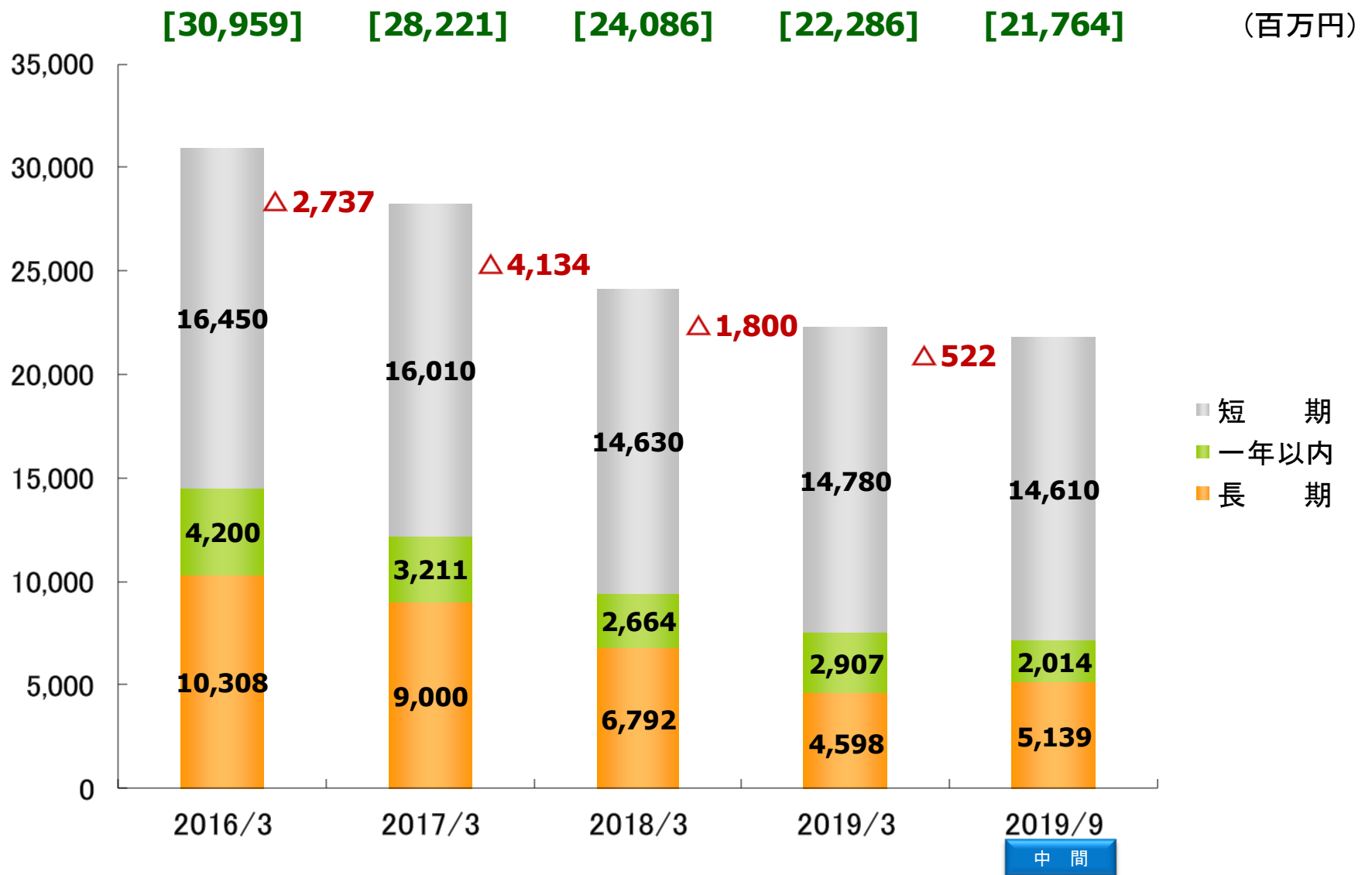
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を2019年3月期の連結会計年度期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

Ⅲ-5. 貸借対照表<負債・純資産>



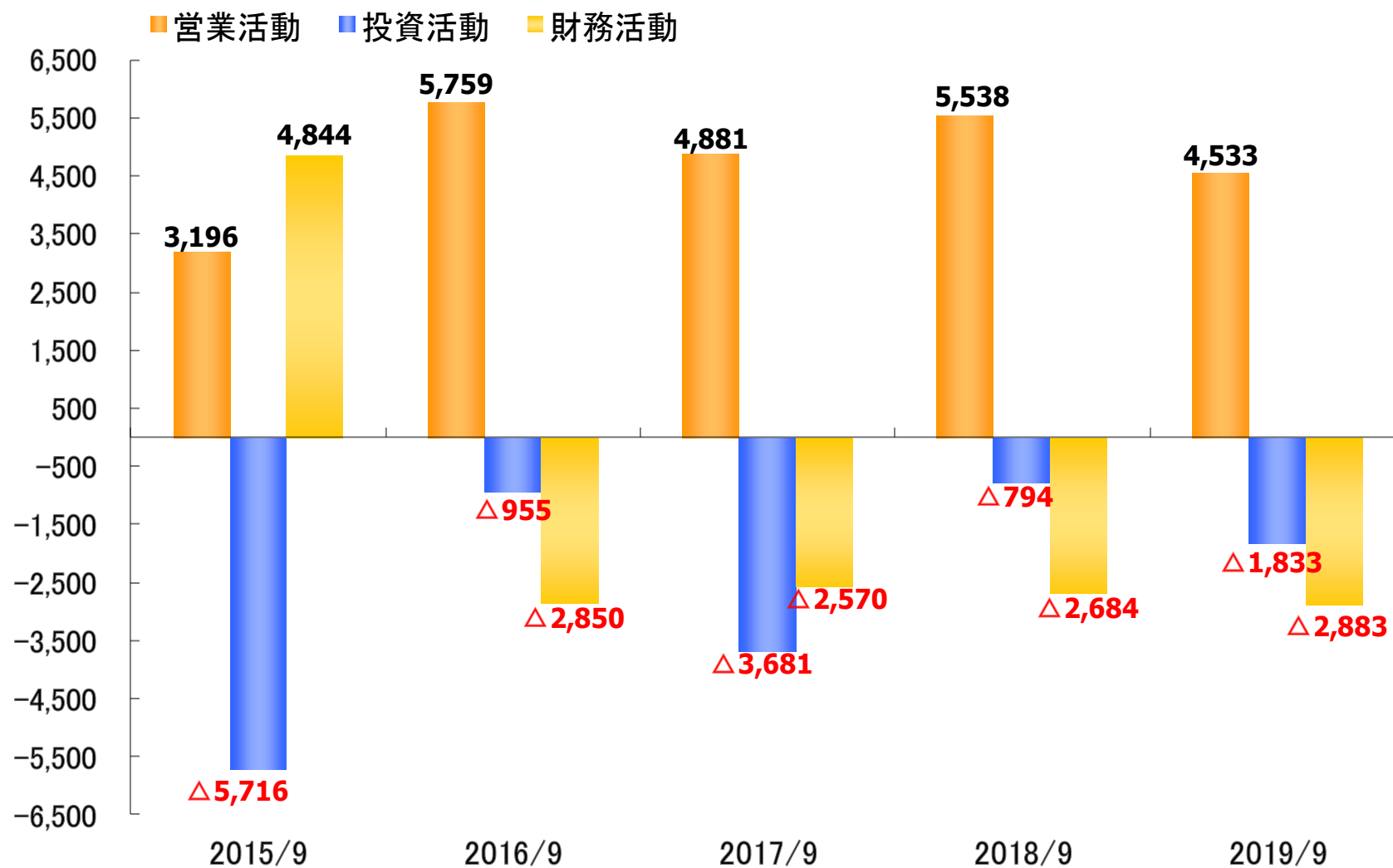
『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を2019年3月期の連結会計年度期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）

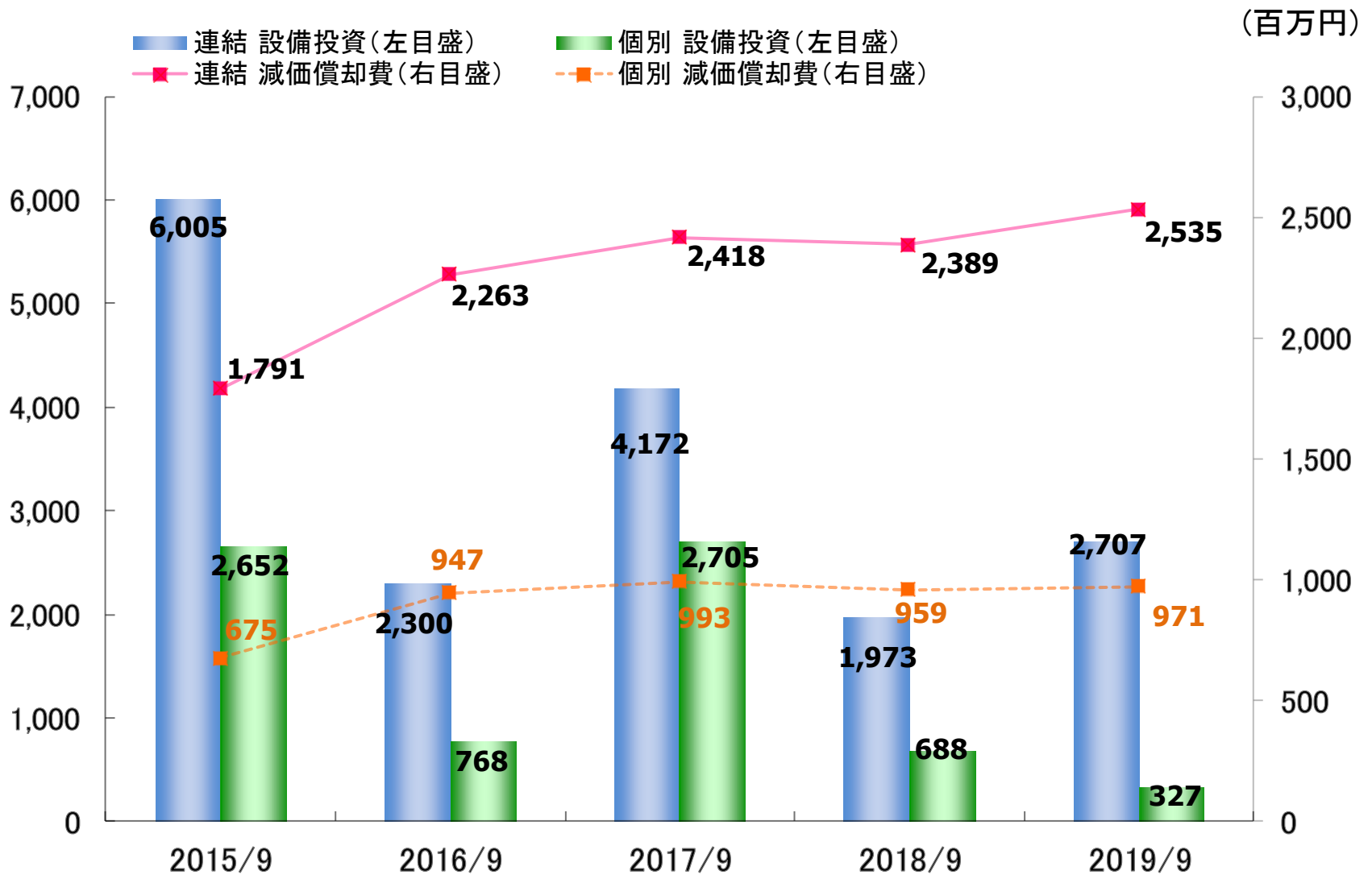


Ⅲ-7. キャッシュ・フロー

(百万円)



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況 と 今後の戦略

IV-1. 2020年3月期第2四半期の業績

営業収益は、 **192億 81百万円** （前年同期比 +0.2%）

経常利益は、 **7億 23百万円** （前年同期比△22.8%）の増収減益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 19,281百万円	+35百万円 (+0.2%)	△575百万円 (△2.9%)	・値上げ効果はあるものの特積は減収 ・特積営業日数の減少 ・貸切輸送の新規拡大
営業利益 703百万円	△228百万円 (△24.5%)	△259百万円 (△26.9%)	・物量の減少 ・人件費の増加 ・運送委託費の増加
経常利益 723百万円	△213百万円 (△22.8%)	△239百万円 (△24.8%)	・金融費用の減少
四半期純利益 492百万円	△163百万円 (△24.9%)	△142百万円 (△22.3%)	

IV-2. 近物レックスの下期取組み

1. 収益力の強化

- ・運賃値上げ
- ・付帯業務料の收受
- ・経営資源の活用
- ・物量確保



2. 輸送の安全

- ・3大事故(車輻・労災・商品)の撲滅
- ・法令遵守



3. 雇用確保

- ・新たなルールによる採用強化
- ・働き方改革

V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、地味ではあるが信頼された重要な存在。当企業グループは信頼に応じて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。



会社概要（2019年9月30日現在）

● 社名	株式会社ハマキョウレックス (HAMAKYOREX CO., LTD.)
● 設立	1971年2月
● 資本金	65億4,733万円
● 決算期	3月31日
● 従業員数	連結 4,800名、単体 802名
● 発行済株式数	19,012,000株
● 株主数	3,069名
● 事業内容	物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
● 連結子会社	20社
● 営業収益	連結 603億14百万円 単体 212億34百万円
● 経常利益	連結 53億29百万円 単体 30億02百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



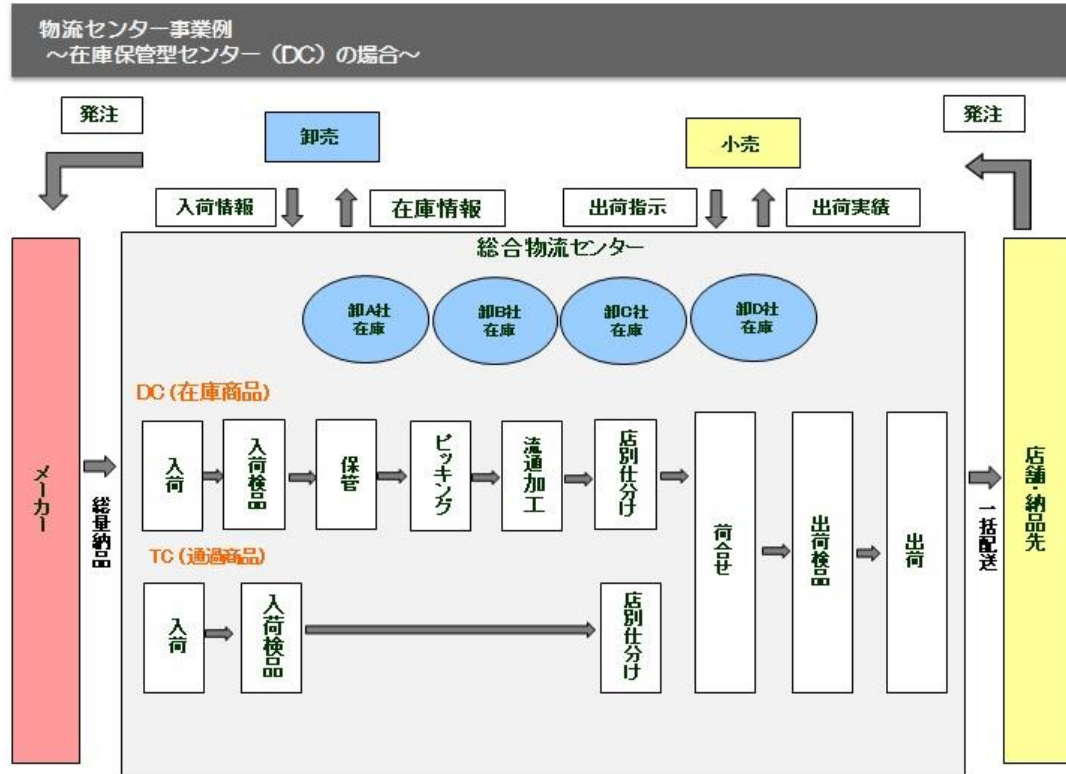
V-5. 物流センター事業

当社は **3 P L (3rd Party Logistics)** をおこなっております。

3 P Lとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託（アウトソーシング）すること』を指します。

3 P Lの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。



コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。日計収支^{※1}及び最適な人員配置によりコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

V-7. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

- 執行役員 管理部長 山田 力也
 - 執行役員 経営企画室長 竹内 義之
- TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。